

2022/4/11

(うと Q 世話し 新説「うさぎと亀」) 書庫版



外国人は素直に相手の成功を喜びますが我が同朋は殆どの場合表向きはともかく相手の成功を心から喜ぶ事は少ない様に思えます。

例えば我が国代表のオリンピック選手やノーベル賞授賞者等明らかにレベルの差が歴然で自分との利害関係がまるでない様な場合を除いて、大抵は「この人に対して利害関係が何かあるんだっけ?」という様な範囲の人に対して迄その成功や威風堂々、明眸皓齒を喜ばない傾向がある様に思えます。

簡単に申せば「通りですれ違うだけの行きずり人に対してさえ敵愾心を燃やす」傾向です。

しかしなぜこの様な事が起こるのか?

色々考えて二つばかりその要因を思いつきました。

例によって正誤は分かりませんが、そう考えると「辻褄があう」というレベルです。

まず一つ目。

多くの我が国国民諸氏は

「生まれながらにして自分は相当高位の人間である」

と無意識に思い込んでいる。

逆の言い方をすれば

「殆ど人は自分より下位である」

と見做している。

そうした人に以下のような事態が起きた場合どうなるか?

「圧倒的に下位だ根拠なく決め付け歯牙にもかけなかった存在」が気が付くとかなり間近に迫っている。次に見ると自分と並んでいる。

当然油断していたその吾人は「そんな筈はない」慌てふためきます。と同時に自らのプライドにかけてその相手を引き摺り下ろそうとします。

迫っていれば蜘蛛の糸のカンダタよろしく蹴落とそうとし、並んでいれば脇に弾き飛ばそうとし、先を越されれば自分の位置まで引き戻そうとする心理。

自分が高位であり下位であると思っている人間の数が多ければ多い程この事態は頻繁に起こります。

先に申し上げました通り「通りすがりの道端の相手に対して」すら、です。

そして二つ目。

この高位、下位という、謂ってみれば一種の「序列」の発生（発想）は価値観や価値体系の数が非常に限られたものである場合に起こります。

同調圧力の磁場が相当レベルな我が国の場合の様に。

これは選択肢が限られて候補者が集中し混みあっている状態です。

他に選び様がないので「失っては大変。出遅れは命取りになり兼ねない」という心理が働いて競争が生まれ、次には激化し、そして益々視野が狭くなって他に選択肢ある事すらわ捨ててしまい、当然探す事等全くない儘、後はもう只々「序列の高位先取り合戦」にのめり込んでいくだけになる。

ならばこの傾向をどうやったら解消できるのか？

答えは「価値観の多様化」

一本道での競争をやめ歩き走る道を何本も設け、理想的には夫々の道のランナーを一人にして競争をなくす。そしてお互いの道を認め合い、時には相互にコラボしあう。

これをうさぎと亀の寓話に準えて申せば

「油断したうさぎが愚かな敗者で地道な亀が賢い勝者」

という教えを

「うさぎはうさぎ。亀は亀。夫々の道を歩けばいい」

と書き改める。

比べ様がないので常時

「隣は何をする人ぞ？」

と神経を尖らせなくて済みますし。